

2023 学力向上プラン

教育目標

「誇りをもち、主体的で、自律できる子どもの育成」
～安全・安心を大切にする三原っ子～

学力向上のための取組～確かな学力（真剣）の育成～

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 「主体的・対話的で深い学びの実現」 ● 単元を見通した授業づくり（全教科） ● 「学習の約束・心構え」「家庭学習の手引き」の確認と活用 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本校独自の「学びのスタイル」の確立 ● 「対話」を取り入れた学びの工夫 ● ICT活用 |
|---|---|

児童の実態を受けた具体的な取り組み

<ul style="list-style-type: none"> ・対話を取り入れた学びの基本となる「学習の約束」の見直し・徹底（話すこと・聞くこと） ・正確な読みのための具体的手立ての提示・実践（文章に線を引く、丸をつけるなど） ・ICT活用による個別の課題の提示（家庭との連携→A I ドリルの活用） 	
国語	算数
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを「書く」活動の充実。（毎時間の振り返り・日記など） ・漢字を「書く」ことの習熟。 ・教科書「たいせつ」を生かした、単元を通して身に付けた力の明確化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算力の向上のための、練習時間を確保する。 ・めあてに対する見通しをもつことで、既習事項の活用を意識させる。 ・ICTの活用により、学習過程の中に各々の考えを共有する時間を設ける。様々な問題解決の方法に触れることで深い理解につなげていく。

全校に共通する実態



<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への意欲は高く学習や問題に粘り強く取り組もうとする姿勢は見られるが、最後まで聞くことが苦手で相手の意図を理解して、学習に生かすことに課題がある。 ・ 漢字の読みは得意であるが、書きに課題がある。 ・ 条件に合わせて書いたり、自分の思いを書いたりすることが苦手である。 	<p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語同様、意欲をもって学習に取り組もうとする姿勢が見られるが、全体的に基礎的な学力の定着に課題がある。 ・ 一つ一つの単元の理解はできているが、複合的な問題が苦手である。 ・ 問題で聞かれていることの意味を読み取るのが苦手である。
---	---

各学年の児童の実態（授業の様子・学力テストの分析から）

	強み	弱み
1 年 生	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ○音読を好んで大きな声で読むことができる。 ○簡単な文章を読み取ることができる。 ○音読劇や動作化などには、積極的に取り組む。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ○簡単な文章題を解くことができる。 ○10までの数の大小や数列を理解すること。 ○足し算や引き算の計算の仕方を理解し、計算できる。 	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ●書き順を守って平仮名を書いたり、字形を整えて書いたりすることが苦手。 ●拗音や促音、「は」「を」「へ」を正確に使って文章に表現することが苦手。 ●自分の考えを表現することが苦手。 ●話すことに消極的な児童が見られる。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ●問題文をよく読まないために立式を間違ったり、絵で判断して間違ったりすることが多い。 ●計算はできるが、早さの個人差が大きい。 ●足し算や引き算はできるが、「いくつといくつ」の分解の問題で引っかかってる児童がいる。 ●引き算では、「ちがいはいくつ」で「どちらがどれだけ」と問われたときの答え方が苦手な児童がいる。
	今後の対策	
	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日音読の宿題を出したり、隙間時間にも読書を取り入れ、文字に慣れ親しめるとともに読解力を伸ばす。 ・ペアやグループで話し合う活動を授業で取り入れ、全体の前でも話す機会を設定する。 ・視点を与えることで、聞く力を身に付けさせる。 ・日常の出来事から文章に書き表すことを繰り返し経験させ、書き方を習得させ、自分で活用できるようにしていく。 ・視写や聞き取って書く学習の中で、拗音や促音の入った言葉や文章を書く活動を取り入れ、言葉のきまりを習得させる。 ・Qubenaを使って、言葉の知識技能を高める。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を見てイメージさせるとともに、問題文を読んで理解し、解答することを習慣化させる。大切な数字に丸をつけたり、尋ねてあることには線を引いたりすることも習慣化させる。 ・計算カードやQubenaを使っての計算練習を増やし、計算力を高めていく。 ・ブロックなどの具体物を使って操作する活動を多く取り入れ、数の構成について理解できるようにする。 	

	強み	弱み
2 年 生	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。 ○助詞の「へ」の使い方を理解して、文の中で使っている。 ○助詞の「は」の使い方を理解して、文の中で使っている。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ○100までの数の構成を理解すること。 ○位取り記数法を理解すること。 ○100までの数の系列を理解すること。 ○120までの数の大小関係を理解すること。 ○順序数を理解すること。 ○繰り上がり○繰り下がりの加減計算や(2けた)±(1けた)の加減計算をすること。 ○文章問題(合併、求小の場面)を解くための立式をし、正しい答えを求めること。 ○形の異なる容器の水の量を、コップ何杯分かで比較すること。 ○ものの長さを、任意単位のいくつ分かで比較すること。 ○算数全体で見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好といえる結果となった。 ○問題の内容では、「120までの数」といった数の基本的な知識や「足し算・引き算」といった計算問題では、正答率がほとんどの問題で90%を超え、かなり良好な状態といえる。一年生までの学習が十分に身につけているといえる結果だと考えられる。 	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ●身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすること。 ●共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ●場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ●事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ●自分が聞きたいことを落とさないように聞くこと。 ●相手に伝わるように、事柄の順序を考えて話すこと。 ●文を1文以上書くこと。 ●経験したことから書くことを見付け、文章を書くこと。 ●自分の思いや考えが明確になるように、文章を書くこと。 ●国語全体を見ると、全国平均を下回った結果となった。 ●文章を読み、内容を捉えることや漢字を書くこと、文章を書く力が不足することと考えられる。特に漢字を書く力が不足することや文章を書く力が個人間で差があることは、普段の学習の様子からも見て取れる。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ●繰り下がりのあるひき算の考え方を説明すること。 ●減法を適用して、順序数と集合数の文章問題を解いている。 ●加法の式に合った文章問題を選ぶことができる。 ●使われている色板の枚数から、形を選ぶことができる。 ●使われている色板の枚数を数えて比べている。 ●方向や位置に関する言葉を使って、いろいろな表現でもの位置を表すことができる。 ●示された減法の式から、適切な文章問題をつくっている。 ●「使われている色板の枚数から、形を選ぶ」「使われている色板の枚数を数えて比べている」といった「かたち」の問題で、正答率が目標値よりも下回っていた。また、「文章問題」でも正答率が落ちている。計算問題は得意でも、文章問題で、文章をよく読まずにミスをする様子が普段から見られる。
今後の対策		
	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く活動を増やし、添削指導を逐一行う。 ・漢字の小テストを定期的に行う。 ・Qubenaの国語のワークシート課題を増やし、語彙を増やす <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形や四角形に関する単元が二年の二学期に組み込まれているため、具体物を動かしたり、組み合わせたりして、図形と触れあう活動を設ける。 ・文章問題を求められていることや、わかっていることに線を引きながら読むよう指導を徹底する。 	

3 年 生	強み	弱み
	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。①(2) 選択 ○第2学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。②(1) ①②③記述 ○第2学年に配当されている漢字を正しく書いている。②(2) ①記述 ○漢字の正しい筆順を理解すること。③(2) 選択 ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすること。③(3) 記述 ○「漢字を読むこと」「書くこと」に関する項目は、全国の平均と比較しても大きく上回っている。 ○全般的に、おおむね満足のいく結果であった。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1けた+2けた=2けた(繰り上がりあり)の計算ができる。 ○3の段の九九ができる。 ○9の段の九九ができる。 ○基準となるテープの4倍の長さのテープを選ぶことができる。 ○文章問題を解くために乗法九九の立式をすること。 ○かさも加法の計算ができることを理解し、かさの和を求めることができる。 ○グラフや表から、いちばん人数が多いものを読み取ることができる。 ○方眼に長方形をかくことができる。 ○直方体の頂点の数を理解すること。 ○基本的な算数に関する知識は定着している。 	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ●第2学年に配当されている漢字を正しく書いている。㉑(2) ㊦記述 <p>●共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について答える㉒(4 選択</p> <p>●「漢字を書くこと」に関しては、全国平均と比較すると、落ち込みがみられる。</p> <p>●普段の単元テストなどを見ると、物語や説明文の要旨を読み取る力に若干の課題がある。</p> <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ●加法の結合法則を用いて、考え方に合うように式に括弧を書いている。長方形を並べてできた四角形が、正方形になる理由を言葉で説明すること。長方形を対角線で切ることができる三角形について理解すること。 ●式の意味についての理解が不十分である。特に、括弧をつけて計算の順序が変わることに対する理解が不十分である。そのため、学習課題によって文章の書き方が変わると対応できない場合が多くある(文章に出てきた順に数字を並べ立式するなど)。 ●図形に関する理解が不十分である。 ●今回のテスト結果には表れていないが、かけ算九九、繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算など、解答に長い時間を要する児童が多い。
	今後の対策	
	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取りに関しては、現在、毎日1ページの練習(範囲を指定しての)と、単元ごとの小テストを中心に底上げを行っている。また、「へん」や「つくり」の学習を通して、漢字を効率よく覚える方法を伝えている。 ・「物語や説明文の要旨を読み取る力」に関しては、場面の要約や見出しを考えたりする活動を多く取り入れたり、読書活動を充実させたりすることで力をつけさせたい。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形に関する理解が不十分であるため、学習内容を復習したり、正確に作図を行ったりすることを通して、理解を深めていきたい。また、今回のテスト結果には表れていないが、かけ算九九、繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算など、解答に長い時間を要する児童が多いため、「掛け算チャレンジ」や「1分間テスト」などを継続して行うことを通して、力を伸ばしていきたい。 	

4年生	強み	弱み
	<p><国語> ○第3学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。</p> <p><算数> ○小数のしくみを理解すること。 ○小数の相対的な大きさについて理解すること。 ○円の直径について理解すること。 ○正三角形を作図することができる。 ○棒グラフの1めもりの大きさがわかる。 ○「データの活用」では目標値の点数を取ることができた。社会科の学習や総合的な学習の時間など他教科でも横断的に、繰り返し学んできた結果だと考える。</p>	<p><国語> ●第3学年に配当されている漢字を正しく書くこと。 ●主語と述語との関係について理解すること。 ●国語辞典の使い方を理解すること。 ●登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像すること。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ●叙述を基に段落の内容を捉えること。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約すること。 ●目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える事例との関係を明確にして書くこと。 ●指定された長さで文章を書くこと。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くこと。 ●自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くこと。 ●国語全体で見ると、全国平均を大きく下回った結果となった。（-9.9点） ●問題の内容では、「説明文の内容を読み取る」と「話し合いの内容を聞き取る」に課題があると見られる。話を読んだり聞いたりして、インプットすることに躓いている児童が多い。「主語と述語の関係」や「言葉の意味」など基本的な国語的知識も十分に身に付いていないことが、根源と考えられる。 ●「要約する」「書くこと」に関して正答率が著しく低くなっている。</p> <p><算数> ●数の相対的な大きさについて理解すること。 ●分数の数直線上での表し方について理解すること。 ●3けた-3けた=3けた（波動的繰り下がりあり）の計算ができる。 ●2けた×2けた=4けたの計算ができる。 ●整数-少数第一位の計算ができる。 ●文章を解くための除法の式を選ぶことができる。 ●除法（余りあり）の文章問題の答えを求めることができる。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味を理解すること。 ●28×7の工夫した計算のしかたを説明すること。 ●□を使って、乗法の式に表すこと。 ●ボールが2こ入った箱の辺の長さから、ボールの半径を求めることができる。 ●ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求めることができる。 ●m（ミリ）がついた単位を1000倍すると、m（ミリ）が取れることを説明すること。 ●余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明すること。 ●道のりを求めることができ、どちらの道のりの合計が短いかを説明すること。 ●算数全体で見ると、全国平均に8.8点届かない結果となった。 ●問題の内容では、「わり算」と「たし算・引き算」で点数が伸び悩んでいた。基本的な数の計算の仕方が十分定着していないと考えられる。計算のやり方がわからず、ほかの領域（図形や測定など）でも正答できない様子が普段から見られている。</p>
今後の対策		
<p><国語> ・語彙力を豊かにするために読書活動の推進を行う。 ・教科書の物語や説明文では、一文ずつ丁寧に読みとっていくことで、話の読み方を身に付けられるようにする。 ・国語の学習以外でも「一言感想」など考えを書いて表現する場面を作り、書くことに対する抵抗感を小さくしていく。</p> <p><算数> ・基礎・基本の定着が不十分である。Qubenaや隙間時間を利用しながら、既習の計算のやり方ももう一度確認していく必要がある。 ・教科横断的に、何度も繰り返し、学びをなぞることで基礎・基本の計算の仕方や数学的な考え方の定着を図る。</p>		

	強み	弱み
5年生	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・【スピーチ】の構成についての説明として適切なものを選択する。<1- 選択> ・漢字を読む。(栄養) <1四イ 短答> ・漢字を読む。(人気) <1四ウ 短答> ・「ぼく」が困った理由の説明として適切なものを選択する。<2二(2) 選択> ・「読むこと」の領域においては、県の平均を2.4ポイント上回っていた。 ・漢字を読むことについては、学習の成果が出ている。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前に3人、後ろに4人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を表した図を選ぶ。<1(1) 選択> ・切り上げて計算した結果が1000であることから、分かることを選ぶ。<1(3) 選択> ・長さ、重さ、かさについて任意単位による測定を基に比較することものを選ぶ。<2(1) 選択> ・タワーの高さは市役所の高さの何倍にあたるかを求める式について、正しいものを選ぶ。<2(2)② 選択> ・表のピンゴの欄に入る数を書く。 <3(1) 短答> ・3年生と5年生が希望する遊びの多少を調べるための棒グラフを選ぶ。<3(3) 選択> ・「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」の各領域において、県の平均を上回った。 ・観点別にみると、「知識・技能」も「思考・判断・表現」も県の平均を上回った。 ・問題形式については、「選択」も「短答」も「記述」も県の平均を上回った。 	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アに入る内容について、【グループの話し合いの様子】を踏まえてどのように話すのかを書く。<1二 記述> ・【川田さんの文章】のAに入る内容として適切なものを選択する。<2三 選択> ・新聞の割り付けとして適切なものを選択する。<3一 選択> ・漢字を書く(ひつよう)<3三イ 短答> ・【ぼうさい新聞】の部分を【本村さんのメモ】を用いて書き直す。<3四 記述> ・「話すこと・聞くこと」と「書くこと」は、県の平均を大きく下回っていた。 ・漢字を書くことについては、課題が見られる。 ・記述式の問題が、県の平均を大きく下回っている。 ・観点別にみると、「知識・技能」も「思考・判断・表現」も県の平均を下回っていた。 ・相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話すことに課題が見られる。 ・登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することに課題が見られる。 ・理由を明確にして、書き表し方を工夫することに課題が見られる。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1Lを5等分した1つ分のお茶の量を分数で表す。 <1(4)イ 短答> ・調査結果の表から、全員の希望が一つは通るように遊びを選ぶ。<3(2) 短答> ・平行な直線を引く方法として、正しくないものを選ぶ。<4(1) 選択> ・縦に並ぶ欄の数と横に並ぶ欄の数を表に書く。 <4(3) 短答> ・「データの活用」は県の平均を下回った。 ・分数の理解に課題が見られる。 ・データの特徴を捉え、考察することに課題が見られる。 ・平行な直線の性質の理解に課題が見られる。 ・二数の関係を表に表すことに課題が見られる。
	今後の対策	
	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」については、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話す機会を、ペア学習や班学習、全体の場での発表などで多く持つ。また、スピーチなど、少し長く話す場をもつ。漢字については、日常で漢字を使わない傾向にあるので、ノートや作文等で漢字を使うように促す。記述式の問題については、作文や日記に取り組ませ、文章を書くことに慣れさせる。また、全教科でノートに自分で考えて記述する機会を増やす。さらに、記述式の問題自体に多く取り組ませる。読書量が少ないことが考えられるので、読書量を増やす取組をする。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数の問題に多く取り組ませる。表やグラフを読み取る問題に多く取り組ませる。また、他教科でも表やグラフを読み取る場面では、しっかり読み取らせる。データを表に表したり、値をグラフ化したり、考察したりする学習に多く取り組ませる。図形を見とったり、描いたりする課題に多く取り組ませる。 	

6年生	強み	弱み
	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・【川村さんの文意】の下線部イを送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する 1三(2)イ ・【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する 2- ・【川村さんの文意】の特徴の説明として適切なものを選択する 1四 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均を2.4ポイント上回っている。 ・「情報の扱い方に関する事項」については、10.6ポイントと全国平均を大きく上回っている。 ・「読むこと」については、全国平均を4.1ポイント上回っている。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5脚の椅子を重ねたときの高さを求める 1(1) ・椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く 1(2) ・テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く 2(2) ・「データの活用」については、10.5ポイントと全国平均を大きく上回っている。 	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する 2三 ・資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く 2四 ・【川村さんの文意】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい) 1三(1)ア ・【川村さんの文意】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く ・「話すこと・聞くこと」については、全国平均を4.6ポイント下回っている。 ・「書くこと」について、10.7ポイントと全国平均を大きく下回っている。 ・漢字を文の中で正しく使うことに弱さがある。 ・日常よく使われる敬語を理解できていない面が見られる。 ・図表やグラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、文章を読んで理解したことをもとに自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ2(1) ・3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する3(2) ・二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く 4(3) ・$66 \div 3$の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ 3(4) ・示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ 4(1) ・切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く 2(3) ・テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く 2(4) ・「数と計算」については、2ポイント全国平均を下回っている。 ・「変化と関係」についても、1.9ポイント全国平均を下回っている。 ・「図形」については、10.2ポイントと全国平均を大きく下回っている。 ・図形の意味や性質を正しく理解できていない。 ・わり算における商の意味を正しく理解できていない。 ・百分率で表された割合を正しく理解できていない。
今後の対策		
<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」については、全教科の学習を通して、対話的な学習を多く仕組んでいくことで、さらに力を伸ばせるように指導を行っていく。 ・漢字については、文章の中で漢字を使った練習を行わせるとともに、文章を書く機会を増やし、その中で正しい漢字が使えるようにしていく。 ・「書くこと」については、「書く」活動を多く取り入れ、周りの友達と見比べたり、よく書けている児童の文章を提示して参考にさせたりしながら、「書く力」の向上を図りたい。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形についての理解が十分ではないので、図形の学習において、意味や性質を再確認する。 ・割合についても、意味や表し方について再確認する。 ・国語と同じで、自分の考えを書く記述式の問題に対応できていない。今後は、図や式だけでなく、なぜそのような考えになるのか、特に言葉で説明させる。その際、ペアや小グループ、全体と多くの友達に自分の考え方を説明したり、共有したりする機会を設け、友達と交流・対話する学習を通して、苦手意識を少なくしていく。 		